

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 東京海上アセットマネジメント株式会社

住所：東京都千代田区丸の内1-8-2鉄鋼ビルディング

氏名：経営企画部長 兼 サステナビリティ推進室 風巻 裕一 ⑩

法人番号：3010001034076

(共同申請者) 沖縄セルラー電話株式会社

住所：那覇市松山1丁目2番1号

氏名：サステナビリティ経営推進部長 大城 武史 ⑩

法人番号：5360001000413

(共同申請者) 株式会社 琉球銀行

住所：沖縄県那覇市東町2-1

氏名：総合企画部長 比嘉 伸一郎 ⑩

法人番号：6360001000404

(共同申請者) 株式会社 サンエー

住所：沖縄県宜野湾市大山7-2-10

氏名：経営企画部長 玉寄 雅人 ⑩

法人番号：5360001008803

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	石垣市野底における絶滅危惧種ウミショウブの再生

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	過去、石垣島野底のウミシヨウブ（海草）の藻場は吹通川河口周辺の浅海域に分布しており、水質浄化機能、ブルーカーボン貯留機能、減波による減災効果、海底の地形保全効果などの役割を有していた。しかし、このウミシヨウブがアオウミガメに捕食され、現在絶滅の危機に瀕している。 本プロジェクトでは、アオウミガメの食害防止等により、石垣島野底における藻場再生を実現することで、本エリア内でのC02吸収源の回復および拡大を目指す。具体的には2024年5月に防護柵（大型柵と小型柵の2種類など）や障害物を設置。なお、ウミシヨウブは、亜熱帯の大型海草でありC02吸収量が比較的多いことが期待される。 また、取組みにおいては野底小学校の児童とともに生物多様性保全活動を実施しており、生物多様性教育および保全文化の構築を促し、地域における人と自然との関わり方を次世代に伝えていくことに貢献するなど、本エリアにおけるウミシヨウブ再生には大きな社会的意義もある。
クレジット取得理由	藻場再生を行うためには、ウミガメの食害防止の保護柵や障害物等の設置が必要である。また、ウミシヨウブ育成状況の経過観察にかかる人件費や機材についても費用が発生するため、プロジェクトの持続・拡大には資金調達が課題となる。今般、ブルーカーボンクレジットを取得することで、本活動を持続可能なものとしたい。
クレジット取得後の計画や見通し	クレジット認定により得られる資金を活用し、保護柵等を拡充するなどの対策を進める事でウミシヨウブ再生範囲を広げC02吸収量の更なる拡大を目指す。 また、クレジットが認定されることで本プロジェクトへの注目度も高まると考えられ、カーボンニュートラルを目指す企業等の協賛も広がっていきたい。 また、脱炭素だけではなく、ウミシヨウブが再生することで生物多様性への貢献などの恩恵も期待できる（コベネフィットの観点）。グローバルに脱炭素だけではなく、生物多様性保全が重要視されるなか（TNFD等）、本プロジェクトの社会的重要性は増していくと考えられる。
申請対象期間に実施した活動の概要	●2024年7月11日：水中に潜り経過観察。アオウミガメがウミシヨウブを食さないエリアを設ける事で、ウミシヨウブ株の保全と再生に成功。 ●2024年8月9日：水中に潜り経過観察。ウミシヨウブの生育を確認。 ●2024年11月：環境省 自然共生サイト登録（参考） ●2025年6月18～20日：モニタリング活動実施。ドローン空撮により対象とする面積を計測。また、潜水による水中撮影（コドラード撮影）により被度を計測するとともに、海草の湿重量・乾燥重量の計測を実施。
プロジェクト実施開始日	2023年8月～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海草 【藻場】 アマモ場 【構成種】 その他
	②クレジット認証対象期間	2024年07月01日～2025年06月30日
	③対象とする面積	【面積】 0.08(ha) 【面積の算定根拠】 添付資料参照。 ドローン空撮および水中撮影（コドラード）による被度から面積を算定 ①大型保護柵の被度に応じた面積＝741.2㎡ ②小型保護柵の被度に応じた面積＝60.7㎡ 【面積の資料】 別添資料_面積算定v3.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 10.2 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 添付資料参照。乾燥重量を計測（東京大学研究室にて、60℃ 48時間乾燥） 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別添資料_重量算定.pdf 【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 上記の通り乾燥重量を計測 【含水率に関する資料】 別添資料_重量算定.pdf

項目1	④吸収係数	【P/B比】 1.9 【P/B比の算定根拠】 インベントリ算定数値、出典はDuarte and Chiscano 1999。 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 35(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（水産庁『磯焼け対策ガイドライン』2章 藻場とは p10より） 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.759(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.08(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 90% (吸収係数：9.49605×評価：90%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 プロジェクト開始前の空撮および水中写真より算定 【資料】 別添資料_ベースライン(事前相談)v2.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.649(t-C02)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.6 t
------------------	-------